

# 平成20年度 学校自己評価システムシート (県立久喜工業高等学校)

目指す学校像	自分創りを目指し、望む進路(理工系大学・企業・難関資格取得)実現を図り、 真の感動を味わえる ころ・技・からだ が育つ学校
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学力と技術力の向上を推進する 授業態度の確立を図る。授業内容の充実を図る。資格取得等の励行を図る。</li> <li>2 基本的な生活習慣の確立と向上を推進する 欠席、遅刻、早退の減少を図る。服装、頭髪指導の徹底を図る。挨拶と正しい言葉遣いの励行を図る。</li> <li>3 人権尊重の教育を推進する 人権を尊重する生活態度の育成を図ると共に、人権教育の充実を図る。</li> <li>4 開かれた学校づくりを推進する 中学生やその保護者に積極的な情報提供を図る</li> </ol>

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	学校関係者	9名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	11名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標			年 度 評 価 (12月22日 現在)				実施日	平成21年 2月17日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	○学習意欲に欠ける生徒が見受けられる。 ○基礎的な知識や能力に欠ける生徒が見受けられる。	学力と技術力の向上を推進する	○「人の話を聞く姿勢」や「学ぶことの大切さ」を折に触れて話して聞かせる。 ○生徒の興味関心をひく授業展開や教材の選択を工夫する。 ○資格取得指導を引き続き推進するとともに、従来のもの以外にも取り組める資格があるか検討する。 ○普通科と工業科でより一層協働し授業計画を見直すために研修会を企画する。	○成績不振者数 ・欠点者数及び欠点解消率 ・提出物の状況 ○資格取得状況 ・受験者数及び合格率 ○普通科・工業科合同研修会の回数	○欠点者数、欠点解消率とも昨年度と同程度であった。 欠点者数 解消率 (昨年度) 234人(240人) 35%(36%) ○クラスにより異なるが、概ね課題(レポート等)の提出状況は以前と比べ良くなっている。しかし一部の生徒に未だ向上が見られない。 ○資格試験合格率はやや増加。補習を充実させ、難関資格(第一種電気工事士(2名)・第2種〃(10名)、ボイラー技士(2名)等)の合格を得た。	B	○相手の目を見て話を聞けない、返事が出来ない生徒が目立つ。授業に対し意欲を持ってない生徒も存在する。対策を検討し、きめ細かい指導の徹底を行う必要がある。 ○資格への意識の向上や重要性を理解させる為に、現在学科ごとに行っている補習などを、学校全体のシステムとして構築し、難関資格に挑戦させ合格者を増やす。	○学年が上がるにつれて、個々に対応して、よく指導していると思う。 ○総合的授業公開をしたらどうか。 ○入試等に力を入れる。(最低レベルの引き上げが必要。) ○資格取得にもう少し、組織立てて力を入れてほしい。 ○教室はきれいになってきたと思う。また、授業の板書も読みやすかった。
2	○一部の生徒に欠席、遅刻、早退がみられる。 ○一部の生徒は、頭髪・服装指導で指導されている。	欠席・遅刻・早退の減少、服装・頭髪指導の徹底、挨拶と正しい言葉遣いの励行を図る。	○遅刻指導の必要性が見られるので、学校全体として組織的な指導を行うよう工夫する。 ○校門指導や通学路指導を継続的に行う。 ○頭髪・服装検査の事後指導を徹底して行う。 ○スクールサポーターとの連携も工夫する。	○欠席・遅刻・早退の数 ○頭髪・服装検査の違反者数 ○校門指導・通学路指導の回数	○欠席は減少したが、遅刻・早退は増加した。今年度(昨年度)2学期まで 欠席1932(2011) 遅刻4541(3778) 早退568(501) ○登校時の整容指導に関して記録を取り、その場で指導し履歴情報を全教員に共有した。その為か概ね違反者・指導回数等共に減少傾向にあるが、特定の生徒に多く見られる。	B	○全体的に多くの課題が見受けられるが、学年団に留まらず職員的一致団結の元、計画的な指導により成果を目指す。 ○今年度は久喜支部のスクールサポーターと連携を図ったが、他の支部も検討したい。	○特定のものに遅刻が偏っているのであれば、個々に対応しているので評価はAでも良いのではないかと。 ○一部の遅刻者には危機感が感じられない。親の指導も必要ではないか。 ○挨拶できるようになってきた。また、登下校の服装も年々良くなっている。
3	○人権問題について学習し、人権を尊重する態度を育成する。 ○生徒会活動をはじめ、生徒の自主的な活動を通して「こころ」の教育を充実させる。 ○生徒会活動において、生徒会執行部は熱心に活動しているが、生徒会員全員を巻き込んでいない。 ○生徒会新聞の発行も順調だが、さらに内容に厚みを持たせたい。 ○部活動の活動が見えにくい。	人権を尊重する生活態度の育成を図ると共に、人権教育の充実を図る。	○全校集会で人権問題に関する講演・ビデオ視聴やLHRでの指導などにより人権を尊重する態度を育成する。 ○生徒会執行部と委員会で核となる組織作り・計画の立案を行う。また、各行事においてより多くの生徒を巻き込むような組織作りを行う。 ○生徒会新聞については、写真部と連携することで確実に取材する。編集委員の増員を図る。また、生徒の関心の高い話題を提供することで多くの生徒の協力と支持を得たい。 ○部活参加者を増やすために今以上に「見える部活動」を目指して、広報活動に力を入れる。	○全校集会、LHRにおける人権教育の回数 ○各種委員会や部長会議の開催回数と出席率 ○生徒会新聞の発行回数 ○部活動への参加率	○携帯電話・PCを介しての誹謗中傷、DVに関してビデオによる人権教育の研修を行った。結果、いじめや身近な人に対する暴力への意識が高まり、問題行動が減少した感がある。 ○生徒会新聞は10回発行した。	B	○生徒指導部、教育相談など他の部署との連携をより密にしていきたい。	○人権教育には地道な新聞等の活動は非常に有効であると思う。配布だけでなく、読む時間をつくると良いのでは。 ○部活動をもう少し大切にしていきたい。また、顧問がしっかり指導できる体制づくりをしてほしい。 ○生徒会新聞等は保護者の観点からは非常に学校のことがわかるので続けてほしい。 ○誹謗中傷が減少していることは、生徒会活動等が進んでいるからだと考える。
4	○久喜工高の情報が中学生やその保護者、地域の方々、本校生徒の保護者などに十分に伝わっていない点がある。 ○年2回、学校評価懇話会を開催している。頂いた意見を学校運営に反映させたい。 ○スクールサポーターとの連携を工夫し、幅広く参加してもらおう。	中学生やその保護者に積極的な情報提供を図る	○学校側から積極的にホームページや広報などを使って情報発信を行うとともに、PTAや地域との連携を深める。 ○学校案内等の内容を、親しみやすく印象深い物にすると共に、中学校訪問などを通してPRに努める ○学校評価懇話会へ多くの教職員に参加してもらおう。 ○各分掌等と相談しながらスクールサポーター活動の充実を図る。また、PTA・後援会の会合等でスクールサポーター登録の呼びかけを行う。	○学校公開の参加者数 ・文化祭 ・公開授業 ・体験入学 ・学校説明会など ○スクールサポーターの参加者数	○学校内行事に限らず、学校外(特に久喜市)へのイベント参加・出張実験等を通して地域に根ざした広報活動を行った。 ○昨年同様に、評議委員会と懇話会を一本化して行った。評価懇話会の前には授業見学をし、生徒の実態を把握した。 ○ホームページの更なる向上を行った。 ○文化祭には906名来場し、昨年度に比べ増加した。 ○学校説明会、体験入学にはどちらも300名以上の生徒が参加した。 ○地元住民に対して防災拠点の公開を行った。	A	○学校を理解し信頼を得る為に、イベントへの参加を積極的に行い、地域に密着した広報活動をし身近に感じられる環境を作り、生徒募集へと繋げたい。 ○評価懇話会の内容について、具体的に進行させるシステムを構築していきたい。 ○ホームページの作成・運営に担当者の力量が問われる。 ○スクールサポーターの運営をスムーズに行う組織作りを検討したい。	○広報活動は非常に評価できる。 ○ホームページは継続性が一番重要だと思う。 ○頑張っていると思うが、数字にとらわれすぎないように注意が必要。生徒のロコミでだんだん良い生徒がきてくれるようになると思う。 ○高校生は小学生への交流をもっとしてほしい。